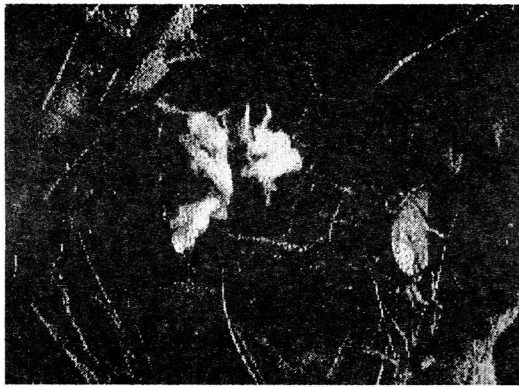
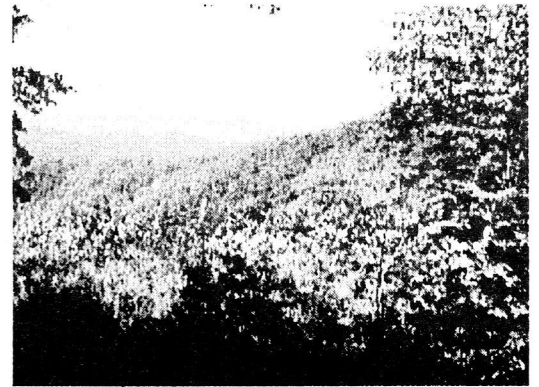




ギンリョウソウ

尾根筋の道は明るくて快適

観音堂までのしっかりした道とくらべてそこからさきの山頂までの道は藪の中の道で、かなり歩きにくい。まわりには低木がおしげり、ギンリョウソウなるものまで出現した。とりたててめずらしいと言うほどのことでもないらしいが、腐生植物といって自分自身は葉緑素を持たず光合成をしない。全身が白でユウレイタケなどと呼ばれている。なんとも気持ち悪い花。



観音堂裏から大聖寺の街を望む

山頂は三角点の周りはすべて藪で、そこまで行かないとわからない。愛想のわるい山頂ではある。

15期 舟田 節子

99年3月XX日

さて0%の4日、舟田ファミリーは福井今庄のホノケ山に向かいました。空にはタムシバ、足元にはショウジョウバカマにイワウチワ。右手に敦賀湾、左手に大日、白山、加越国境、越美国境の白銀の山々が連なる結構な展望の山でした。敦賀と武生を結ぶ幻の北陸道といわれ、ブナ林の中にもよく踏み込まれた古道が残っています。

山頂にいた小松からの夫婦と、山名を同定しながら話していたら7年前、筈ですれちがった遭難者と、彼らも1時間前にすれちがっていたとわかり、びっくり。それぞれの山にそれなりにベストシーズンというものがありますから、あちこちで「ニアミス」をやっているとわかりました。

旦那なんか調子づいて「石川県の山も書いたんですよ」なんて……。私はその件はわざわざ言いたくはないんですよ。私より登っている人ならそれこそ山ほどいる。あれは林代表にきた話であって、彼が最終責任を持ってくれるからこそやれた仕事。自慢する筋合いのものじゃない。意外とおめでたいんだわ……。

それから、またあの山がどうのこうのの話になって、「そういえば、高三郎ってのも随分骨のある山で……」そしたらすかさず「ああ、あの山はこれが整備に行ってるんですよ」もお……。そう、それは自慢できますよ。お膳立てして、現役の薄弱を嘆いたり、叱咤激励したり、これは十分苦勞しているから、誉めてもらっても罰はあたらん！。しかししかし、私としてはやっぱり旦那には申し訳なくて前後には、良妻賢母を心がけ、そっと抜け出て倉谷にでかけてたんですよ。なあんだ、旦那の自慢の種になるんだったら、これからはでかい顔して出掛けよと。あまりの教育効果に、私の方がびっくりした……というお話です。

99年4月XX日

4月17日土曜日は残雪の奥獅子吼、つづく稜線の宿(しゆく)の岩へまわっていました。獅子吼からの尾根伝いは高度感がありながら道そのものは平坦。ショウジョウバカマ、カタクリ、キクザキイチリンソウ、そして生垣並のヤブツバキの群生。視界に花のない所はないくらいのフラワーロードになっています。時折残雪が道を埋め、そこにカモシカの足跡がついているのがまた嬉しい。真正面にテカテカの白山。そこからべたっと白く大笠、奈良、見越、そしてわが高三郎が三峰それぞれに根張りをもって連なっています。残雪のこの時期、谷筋がくつきりうかびあがり、藪山がぐんと格のあがった名山に見えます。

目の前ではギフチョウがもつれあって飛びかい、
まあ獅子吼高原からの音楽は聞こえてくるのだけれど、
かなり天国に近いと思えた山でした。

気を良くして、かねて尋ねてみたいと思っていた
宿の岩へまわってみることにしました。
そこは以前河内村板尾から遡って道がわからず敗退。
その後一会員の調査で写真も撮り、分県ガイドに掲載された
(泰澄大師遥拝の地としての史蹟価値あり)ものの
やはり道がわからないと一番クレームがきた所でした。
藪の薄いこの時期、尾根筋からならねえらるだろうと
獅子吼高原とは正反対に尾根をたどっていったのです。
意外や道ははっきりとついていました。昔の送電線の
巡視路として、巡視路程度の鮮明さで。だからこの標高だと
道はあるけれど、他の季節に一般ハイカーには
お奨めできません。残雪不明箇所では二人で道を
探しつつ、ついに宿の岩を見つけました。というのは
後の話で標柱が雪で埋もれていて、これかもと何枚か
撮った写真が、本と見比べたらそうだったということです。
つまり河内村は秋に手入れをしてくれているのだけれど、
手入れ後と、早春でなければ、ちょっと無理といった所です。

さらに奥の蛇巻岩も探してみようと、こうなると
乗ってしまうのが旦那。私は今回は地図に写してこなかったん
だからもう帰ろう。旦那はせっかくここまで来たのに・・・。
夫婦で山なんて幸せ！なんだけれど、たいていは
こうやって山の中で喧嘩する羽目になります。
仕方なくさらに一時間付き合い、もう道も雪の中
で判らなくなったところで引き返しました。
なにしこんなシーズンですからね、残雪からはねあがった枝で
向こう脛から鼻の下から、したたかにバンチくりましたよ。
それでも、途中収穫のセンナやコゴミで機嫌を直し、
河内村へ下りて、タクシーで鶴来へ戻りました。

まだちょっと尾鱧の話があります。
「すみません。電話を貸していただけませんか」
と寄った家が、偶然にも旦那の昔の患者さんの家でした。
それも、そのおばあちゃんの息子さんが
例の7年前の笈の遭難者の第一発見者だったのです。
あの時もそんな偶然に吃驚したけれど、
病院でしか会っていないその人に、たまたま寄った家で
出くわすなんて・・・。
2週間前のホノケ山といい、笈がからんでくるのは
なんかあるんでしょうか。
今年は雪がたっぷりついています。
ゴールデンウィーク、もし天候にめぐまれたら
ねらってみたいですね。
難しそうかといえ、三方岩方面からは数珠つなぎなのが
ゴールデンウィークの笈の現実です。さて・・・。

99年4月XX日

25日雨の日曜日。今日はいくろゆりに同行。
雨が降ると旦那は「わしはナカオではない」と、
ちゃんと風邪をひきます。そして送ってしてくれるのです。
この軟弱者！こんな時は他のメンバーとおしゃべりが
たっぷりできるから、まあ、かまへん。
「雨の日に登るものの気がしれん」といわれても
参加者は60人。みんなこの日を空けていたんだもの。

板尾では現地出身のおじさんが、自前で小屋を
建てていました。1000万かかったとか。
県により板尾コースが復活し、望郷の思い捨てがたく、
定年を3年後に控え、財布をはたき、休日の度通って
建てたとか。17軒あった部落がここを離れたのは
昭和46年とのこと。じゃあ私の記憶も間違いではない。
2時間の行程。そのうち30分強が沢筋の雪の上。
もちろん何もみえないけれど、ガスの中に浮かぶ
新緑もまたよし。
ナカオの内5名は、帰りは小原にルートをとりました。
ルートを効率良く調査なんて、結構名目で、
心置きなく山菜取りに専念したのでありました。
この部分はワングル時代とは完全に違い、
家庭をもって芽生える領域です。「山乞食」と、
採らない主義の人もありますけどね。

そのルートを通る人の数で保護、愛護(利用もする)の
使い分けをすればいいことです。
今年の公立入試問題にあったじゃないですか。
子供にトンボ採りを楽しんでほしい。そうでなければ
トンボが住めない環境を心の痛みとしてもらえないって。
ウド、ワラビ、ゼンマイ、コゴミ、タラノメ、シオデ、
コシアブラ、フキ・・・これらを、煮て、炒めて、揚げて、
「いやみ」をちよっとふりかけて、春の味！究極グルメ！と
家で味わいました。

浅間山遭難の内一人が、学研の友人が中学生の理数指導に
雇っていた人でした。「舟田さんも気をつけてね」と
わざわざ電話をもらいました。
自分が気をつけていても巻き込まれる交通事故に比べれば
自己責任なんだし、こちとら、救助してもらえるまでの
予備カロリーも準備してるつもりなんだけど・・・。
どうぞその折りは、このネットも使って救助に来てください。

いやあ昨夜は生徒の父親から電話がかかってきて
20分近い対応の後には、顧客満足ということで
補足のお手紙打ちに追われてしまいました。
ご当人は放課後のスケジュール満杯。公式も正確に
覚えられない。親にすれば一人か二人の大事な我が子。
見ているようで見えていない。待ってやれない。

リップサービスしたって、本人の資質は変えられないですよ。
学力アップサービスは不可能なんだから、
苦情を誠意をもって受けとめ、子供の自己弁護の歪曲情報を
ソフトに訂正し、気長に励ましをと・・・。
学校が、半分しか教科書をやらず、なんかあればさえ
学級会。皆で考えましようの時代に、百点まで直しましようが
だんだんイジメになっていく。
今の小3で、大学全入が可能だそうです。一部を除けば
競争する必要がない。できるのか、わかったのか、
評価したり、差別したりしないでいいんです。

「大学生を指導します」のDMIに呆れましたけれど、
進級、卒業できない大学生への指導が商売で成り立つ時代です。

ゴールデンウィークは3、4日と岐阜県の瓢ヶ岳ともう一山。
雪の上ではないので、御安心を。

99年05月05日

29日は大山へ行こうとして通行止めで、小松の動山へまわりました。
創造の森からの新しい道を、杉の倒木を跨ぎつつ行ったら
ふっといワラビだらけで・・・「もう止めとこ・・・あった！」
で、結局蒸し釜3杯分アク抜きする羽目になりました。
出立が遅かったのと、大山を回ったのと、山菜採りのせいで
頂上着が2時。白山が見えていたのはその前後1時間ほど。
見る度に1枚ずつ白いベールを脱いでいくっていうか、
雪解けが進んでいく。「息子よ、あの雲が流れている所が
今雨が降っているんだよ。」と言うか言うわんうちに陽が陰り、
途端にシャワーと霰。まあすぐ止んでさらに山乞食をやって帰宅しました。

その日、ナカオの数人は中日歩こう会の指導。5月2日はその
予備日にあたっており、春合宿は3、4日。
岐阜県瓢ヶ岳(ふくべ)は1163m。どうというほどの山では
ないけれど、白山山頂の方位盤に刻まれている中での
最後の未踏峰だったのです。(多くの文献では抜けたまま流布して
いるらしい)。現地に行けば山岳信仰の歴史があり、刻まれるだけの
名山であったとわかります。翌日は雨につき、神社巡りに終始
したのですが、州原神社などは表参道が長良川そのもの。
渡し舟で寄付いて参拝し、次に白山神社に参拝して後に登拝と
敬虔な信仰登山のルートがあったようです。

メンバーの中には、1日が白山日帰り、2日は鋸崎山。
今日は骨休めなんてすごい山女(山ンバに近いかな?)もいます。
年間100日なんて年もあって、まさに桁違いなんだけど
実は開頭手術が2回。入会してからも足の骨折をやったけれど
筋力トレをやってちゃんと復帰。あれだけウオーキング・ハイ
になれるんなら、頭開いても悪くないと思えるほど
もらった命に積極的です。
ちなみに、医王山に点在する地藏さんの赤い前掛け。
彼女が作っては御主人とつけかえています。
ご主人はかの雄山高校山岳部出身。ピアノの調律がお仕事で
素敵なご夫婦です。

社会人山岳会に入ると、大学の部とは全く違った人達と知合えます。
昔の仲間に声をかけて集まってでは、お山は遠くなるばかり。
自分の住んでいる地域で山岳会を探せば
山仲間も、行ける山も、すぐ見つかります。
OBが全国に散って、それぞれに山を続けていて
ワンゲルネットで最新山情報が交換できたら・・・。
そう、「ワンゲル」なんて枠をつける必要はありませんね。
枠の意識を持たず、ネットを広げている人達がいる。
こっちがアクセスしてみればいいんだわ！

99年05月13日

* 8日は取立山。9日は小松、兜山に行ってきました。
取立のミズバショウは今週末ぐらいが見頃。残雪の白山の
眺望も抜群で今がお奨めの山。たいそうな人出です。
ちなみに5月2日、シャクナゲで有名な富士写ヶ岳は
200人も山頂にいたそう。
今週末はたぶん鳴谷山へ行きます。シャクナゲ、ミズバショウ
が一杯の山です。
春合宿の鳴谷しか知らん人はかわいそうよね。
同じ山に登って飽きんか？と知らない人はいうけれど、
毎回新しい発見があり、同じ表情のことはないもの。

99年05月29日

29日は鳴谷山。翌日も晴れてしまい、別当出合へ植物観察に
行ってきました。本当は登りたかったけれど、
旦那は金曜日は富山の端の朝日までバイト。そこから金沢へ
帰ってきて、連日白山麓へ運転させて、登らせてというのも..
さりとて私が運転すると言っても、心配だと24年前に
ペーパードライバーに格下げされたままなんだから..
(旦那は大正解だったと言っちゃいますよ。運転させてたら
家にはおらん。..言えとる。)

鳴谷山には20台くらいの先行車。シャクナゲもミズバショウも
時期遅れ。やはり、分県ガイドの取材時が最高だったんだわ。
時期遅れの替わり、頂上手前までミズバショウがあることや、
その先の青柳新道の続き辺りにシャクナゲの群生のあるのが
わかりました。悟をおんぶしてきた時には、頂上付近にはトキソウ、
鎧壁付近はタマガワホトギスで埋まっていたし、
その前の上の二人を連れてナカオで来た時は、カライトソウと
リンドウが揺れていた。家族の成長と山の思い出が重なって、そんなことを

99年6月6日

恒例の浅の川を美しくする会。またしても前日に両隣分も掃除して
赤兎山へ向かいました。それにしても、以前「今度うちの班へ町会長が
まわってきたら、うちの番みたいよ」と言ったら、「わしゃやらん。
それくらいなら単身赴任する」と返事してたのに、本当に単身赴任に
なっちゃうんだから。いらんことは言わないもんですね。

(こんなのもマーフイーの法則でしったっけ?)

今日もくろゆりの山行につき90名近い参加者。でもここは大駐車場があるから..
と、なぜか遙か手前でストップ。勝山市主催の兎年にちなんだ記念登山が
開催されていたのです。運悪しというより、後日、その前の週に登った、そのさらに
前の週に登ったという人にそれぞれ出くわしました。
どの日も呆れるほどの満員だったそうです。やはり兎年だからでしょうか？

今日は大長山班と赤兎山班に別れており、我が家は珍しく楽な方の
赤兎山へまわりました。それは買い立ての接写レンズで湿原植物を
撮影してみたかったのと、来週は大笠の心づもりがあったからなのです。
蒸し暑い日でした。
あまりに人が通るので、「撮影できん。あとから登る。」

と言ったのを真にうけて・・・ところがいつまでたっても上がってこん。
散々に抜かれて、痺れきらして戻って見たら、慣れないレンズにふりまわされて
旦那はしっかりバテテおりました。「もう撮るな！」とカメラとりあげて・・・
恐い？ここまで責任もってついてきてくれるの母ちゃんしかおらんよ。
水を「与え」たり果物を「食べさせ」たり、やっと頂上手前で本隊に
追い付きました。

湿原の方はあまりの混雑ぶりに、他のパーティーに交じっても困ると、
頂上から動かないことになり、もちろんその日のリーダーには従いました。
白山は一段と雪がなくなっていました。今日の暑さといい、これからは
水との闘いになります。

尚、大長山の方は以前はスス竹をかきわけてのひどいドブの道だったのに、
スス竹が刈り払われ幅広の悠々登山道になっていたそうです。
やはり満員の頂上だったとのこと。

ナカオの精鋭3名は、小原峠から三ツ谷へ下りて行きました。
いいのよ、うちはナカオの落ちこぼれでも。

真夏のニュースに、バテたのも仕方がないと心なくさめて、
アリナミン飲んで、お休み！



ゴバギボウシ

6月13日

昨日は松林さんのご推薦で安全登山の座談会に出席。でも、同席の富山の
中高年代表も、実は「連れていってもらおう」のレベルのままのようでした。
世話役として会員の気儘に迷惑をしてはいるが「楽しい」まででストップ。
つまり、サポート隊に「山行面ではまるまるおんぶ」の会からの代表でした。
それは、既山岳会の人達が

月に1回はボランティアで、そのままでは危ないような人達にも山を
楽しませてあげようといった会だったようで、そんなおんぶにだっこも、
富山ならではの厚い登山者層にささえられて可能なようでした。
つまり所属するには何ともらくちんな会で、その為に350名の会員に
ふくれあがっています。今は顔も一致せず、かつ月1回の例会山行以外に
会員達は勝手に山行をし始めていて、私はこれから事故が続出するなと
聞いていました。

意図するところは親切であっても、相手の大人は勝手に判断し、自分さえ
よければで動いてしまうものです。山では半端な親切はするものではない。
きれいなカラーのガイド本が、下界の気儘を持ち込む登山者ばかりを
増やしているみたいで、懸念もすれば、自己嫌悪にも陥ってしまいます。
(このあたりを長々書いたのは、あとの伏線になるからである。)

ともあれ百万石祭の金沢を後に、富山・岐阜県境の登山口に立ちました。
まぶしい緑と、紺碧の空に残雪をまとう山並。

旦那はバテからは立直ったものの、うすら心配で「Kさんを誘ったら？」
で、今日は舟田夫婦プラスKさんの3名。

Kさんは13年前仲間とナカオから抜けてしまったけれど、
当時から私達とは気のあう人で、彼の気の良さに「おんぶ」して、

背伸び気味の山にもチャレンジさせてもらうことがあります。

大笠は私は2度目。道には迷う所なし。されど夫婦二人だけでは、登れるであろうにしても余力ゼロが正直な所。ダメもとで電話したら先約をキャンセルしてOKしてくれました。

だから好天に恵まれたのが尚嬉しい。

桂湖は満々の雪解け水をたたえ・・・それを真下に見ての恐怖の鉄梯子5脚からスタート。心臓縮んだまま今度は破裂しそうな急登が延々続くのです。

1月前かに、今日13日に「大笠山山開き予定」と紙面中に見かけたのですが、そんな形跡どこにもなし。京都や札幌のナンバー6台は停まっていたものの・・・急登はつらいけれど、この自然真っ只中がなんともいえません。このところ人のあふれる山ばかりでしたから。

天ノ又からは意外に白い白山が。先週の赤兎は南面で、こっちは北面にあたる為なのです。笈側の谷も奈良岳側の谷もグレーの岩壁をつらねていて、壮観。急登の部はここで一段落で、ここからはアップダウンの忍の字コース。でも残雪の箇所にはカタクリやコブシが、他の所にはツバメオモト、ツマトリソウ、コイワカガミ、アカモノと初夏の花が待っていてくれます。Kさんによく知ってるねえと

誉めてもらいましたが、いつもはコースタイムの半分で飛ばしているKさんだから、花を見ている時間も半分としなきゃこっちも立つ瀬がないわよ。新築の避難小屋に着く。小屋にはテント、シュラフ、ガスボリなどが設置されていました。これでどれだけ助かるかしれない。そこからトラバースして、さらに階段をはいあがり、奈良との分岐。やっぱりあった、ハクサンコザクラ。そしてルンルンの平坦10分で頂上。途中で追いついて行った単独行さんが昼寝をしていたから、そろっての記念写真を撮ってもらいました。

山岳展望も今ではCGでどうにでもなるらしいけれど、花、雪、風、音はついてきません。息を整えつつのやったぜ！が、やっぱり充実感です。秘境中の秘境に立てば、会心の笑みがこぼればかりです。

しかし、降りなければ帰れないのよね。下りは楽といっても3時間半かかり、大笠は白山の日帰りより覚悟のいる山と誰もがいます。上部の方には木製の階段がつけてあるけれど、これがまた地盤と丸太は沈下して、鉄杭だけがはみでていてやばい。「危ないよねえ」と言いつつ避難小屋から30分程下った頃、右手の枝にひょいと気をとられた瞬間左膝頭に激痛！鉄杭にひっかけたのでした。

ウウとうずくまり、さすって歩きだす。打撲とも違う異様な痛さだったものの歩けるのにホッとして、忍忍の尾根を尚も降り続けました。やっと天の又のベンチにたどりつき、やおらずボンをたくしあげてみたら、パッカリ傷が開いていた・・・。

3cm強の裂傷でもこぼれる程の出血でなかったのは真空切りみたいな切れ方をしたせい？ともあれ降りるしかない。幅広の傷バンをあてて降りてしまいました。

傷を見た旦那が「あんなのに当てたらそんなもんだ」と言い、



コオニユリ

夏山シーズン近し 中高年登山ここに注意

降りついた途端「こりゃ当分動けんなあ」と真顔になったのは
山中で動揺させてはいけないの気配りだったのか・・・。
ともあれ後はさすがにてきばきと手配してくれて、10針縫う
羽目になったのでした。
安全登山の話をしてきた翌日のお話なのであります。

新聞に載ったのは2日後。見た見た、すごいねと電話がかかってくる度、
なんとも情けなく傷は疼いたのであります。

(抜糸がすんでもう10日。卯辰山でもうリハビリ済みにつき、
お天気次第でもう動きます。ところで、ナカオは7月4日に大笠だって。
いくら何でもパスです。でも梅雨のさなかです。やっぱりあの日が
登り時だったんですよ。)

6月30日深夜

北 国

平成11年(1999年)6月15日 (火曜日)

中高年登山の魅力を表す「3K」があるといいます。一に健康、
二に感動、三が軽装備。夏山シーズンが近づいています。健康ブーム
や自然志向の高まりから山の魅力に取りつかれた中高年が多いようで
が、自らの体力の衰えに気づかず事故や遭難も多発しています。ズック
で三千級の山に登る無謀な人も見掛けるとか。山登り、山歩きが大好
きで、初心者アドバースも出来る四人に、「失敗しない中高年の登山」
の心構えを聞きました。

出席者

森田 富美子さん(金沢 くるりクラブ)	舟田 節子さん(金沢 ナカオ山岳会)	今泉 暁子さん(高志山の会)	浦山 悟子さん(高志山の会)
---------------------	--------------------	----------------	----------------

3つのタイプ

舟田 中高年の山ファンには三つのパターンがあります。一つは若い時から山好きが続いている人。

二つ目は若い時にやっていたけど中断して、定年などを機会に再開した人。三番目が、子育てなどが終わって余裕ができて若いころの蓄積がなくて始めるタイプ。比較的、危ないのは二三のタイプです。

森田 この前、白山に行ってきたのですが、ズック靴で登ってきた年配の女性に会いました。きちんとアイゼンをつけた登山靴で登る別のグループもいるというのに。「雪が残っていて危ないので靴をつけてください」と言ったらイヤな顔をされてしまっ

た。今泉 私たちの会

は平成元年に名古屋の中高年グループの遭難事故があった後、平成三年に中高年の山好きのために作られたのです。百五十人で始めたのが今は三百五十人にまで増えました。

舟田 新3Kといわれるなかでも、やはり健康志向が、今の中高年登山を支える最大のものではないか。私たちが、グループを大切にすることは、いろいろ理由があります。例えば荷物

を分散して持つていくことで、装備が軽くなること。山の情報が入ること。今泉 中高年はやはり重い荷物ではバテます。あるお年寄りの荷物を見た時、もう食料がいっぱい。特に女の人、人にあげようと、余分なものまで担いでくるケースが多い。人の心配までして自分

語で相談されても、正直なところ返すしようがない。今泉 あの人が行けたから、私も行けそうと思う人が多いいです。危ない。

浦山 自分の体に合った行動、無理をしないことを基本にする。七十でも八十歳でも、自分に合った登山はできる。

今泉 剣岳に日帰りするベテランがいて、それで健康のバロメーターといいますが、あまりお勧めできない。私たちは、ゆつくり自然観察など、草花一つも見ながら行きたい。

浦山 四十歳のころまでは限られたシーズンにしか山へは行かなかったのですが、今の会に入ってから、一年を通して低い山にも、自分の世界を見つけました。体が弱かったのが、山に入っているだけで精神的にも肉体的にも強くなりました。

森田 低い山は低いにいい味があります。少しの雪を踏んで登ったり、秋にはかさこ枯れ葉を踏みしめた

組織で学ぶ

舟田 私たちの学生のころは一学年に三十、四十人のワンダーフォーゲル部員がいたのが、今は四学年でそれくら

いです。今の人は組織を嫌います。そして手続きなども嫌がります。好きな時に好きな仲間少数で山に行く。一週間以上もお風呂に入れないような生活自体を嫌がります。

今泉 山小屋もきれいになりました。ステキにワインの食事までできる。水洗トイレは当たり前という時代。靴も立派、リュックも軽くなりました。

森田 中年でも先の新3Kで山を始めると、半数以上は、観光ツアーの気分を捨てて欲しい。山でのルールも覚えて欲しい。例えば道ですれちがえば登りの人を優先する、山頂に先客がいれば遠慮する、というマナーもある。

舟田 ワンダーフォーゲルでも、中高年でも、組織で先輩から学ぶ技術やマナーがある。

今泉 地図の見方を現場で学ぶこともある。単独ではできないことです。舟田 登山は自分の足で歩くということに尽きるのですが、一歩間違えれば命にかかわるという認識を持つことが、危険と背中あわせで、あなた任せではできないことをもう一度押さえておきたいですね。

小島 敬 香港滞在記

1999年2月7日

喧噪と猥雑に満ちた香港の街を少し離れると、そこには驚くほど豊かな自然があります。

第25代香港総督マクレホース(在任期間:1971年~82年)という山好きの オッサンが、毎週のように香港の山々を歩き、気に入ったところをどんどん自然公園に指定した為、このちっぽけな香港に、奇跡のように自然が残ることになりました。九龍半島の山岳部を東西に横断する100kmの立派なハイキングコースは、この総督の名を冠して、マクレホース・トレイルと呼ばれています。北海道の礼文島のような海沿いの草地を出発点とし、南アルプス・北岳バットレスの如く聳え立つ岸壁の横をあえぎあえぎ登り、ススキの広がる高原を抜け、シラタマホシクサの群生する湿地帯を横に見て、ライオンロックと呼ばれる岩登りの練習場を通り過ぎ、野猿の数多く棲む鬱蒼とした森を抜け、香港最高峰の大帽山(957m)を越え、静かな人造湖のほとりを歩く、全長100km(東京から御殿場、名古屋から京都)のハイキングコースです。

山仲間10数人で1998年9月から5回に分けてこのコースを歩きました。ゴール手前の湿地にウツボカズラの群生地が何箇所もありました。さすがに香港は北回帰線より南に位置するだけあって、植物も面白いのが生えている。

1998年10月中旬、日本人倶楽部に山の会のメンバー30数名が集まって立食パーティー。10月上旬の連休を利用して1週間ほどブータンの山岳部をトレッキングしてきたメンバーによる報告会だとか、香港の自然のスライド撮影会だとかがありました。会員は日本人が大半ですが、米国人、英国人、香港人、ネパール人など「外国人」もいます。写真好きな日本航空の駐在員は、香港の自然を題材にした1999年版カレンダーを作り、結構評判がいい。私もつられて3部買ってしまった。

デジタルカメラを持たない私は画像を皆さんにお見せできないのは残念ですが、香港の自然の美しさは、その意外性も含めて、なかなかのものがあります。

香港17期 小島敬

1999年2月7日

11月は香港で最も爽やかな月と言われています。この季節に、毎年、「100km Trail Walk」という催しが行なわれます。香港の九龍半島を東西に横断するマクレホース・トレイルと呼ばれる100kmの山間ルートを四人一組(リレー形式ではなく、四人全員で同時にゴールしなければならない)で48時間以内に走破するという、「体力と気力とチームワーク」を競うレースです。

元々は香港駐留のグルカ兵の訓練(四人というのは軍隊の最小単位)の為に始められたレースですが、1986年からは民間人も参加し、中国返還後の昨年は市民だけで運営されるようになりました。

100km Walkのホームページは、<http://www.hk.super.net/trailwalker>

私もひょんなことから山登りの同好者の多い新潟県人会にはいり、県人会から参加の4チーム16名の選手の一員に加えてもらいました。9月から毎週末、マクレホース・トレイルのコースを20kmずつ歩いてトレーニングを重ね、本番の11月までに180km近くを走破しました。このレースは標高差1000m近い山間コースを一睡もせずに歩きとおすという、クレージーとしかいいようのないレースです。

私のチーム「黒姫」は一人の脱落者もなく、33時間19分で完走することができました。参加760チーム中、完走したのは398チーム。私たちのチームは186番目のタイムでした。四人ともこのレースには初参加で平均年齢も47才と新潟県人会の中では最高齢チームでした。何よりもうれしかったのは、全員で一緒にゴールできたことでした。それに、選手に倍するサポート隊が2ヶ所のサポート地点で、暖かい食べ物や飲み物を用意してくれたお陰で、無事に完走することができました。選手とサポート隊が心を一つにしてゴールをめざす100km Walkは、今まで経験したことのないものでした。ちっぽけな香港でこんなに面白いイベントに参加できて大満足。会社休んで100km歩いて何になるんだと言われれば、何もありません。ただ、無駄で馬鹿なことをみんなで力を合わせて成し遂げることがこんなにも感動的だとは思いませんでした。馬鹿なことに首を突っ込んだお陰で、気の置けない仲間がたくさんできました。やはり一緒に汗を流さないで親しくはなれないのだと、改めて思った次第です。100km完走したことは香港でのいい思い出になりました。来年からはサポート隊に回り、不揃いなおにぎりをたくさん作って選手の完走のお手伝いをし、この感動を分かち合いたいと考えています。香港 17期 小島敬

1999年2月7日

1998年11月13日(金) 本日、100km Trail Walkの幕が切って落とされた。

今朝の天気予報は最低気温21度、最高25度。スカットした晴天で気持ちがいい。

地下鉄・彩虹駅には12時集合。駅に着くと、今回一度も練習に出ておらず、心配していたケイ(香港人)がいた。ケイは他のチームメンバーがわからず、別場所で待っていた。声をかけ、本多、浜、神田、大場、安本、小島に紹介。大場嬢は靴は別にして、上から下まで前身新品に包まれ、忍者みたいでカッコいい。頭にはヘアバンド。後でみんなに風呂上がりみたいだと言われていたが、この前の日曜日の最終練習で、左手の小指の付け根が折れたとショゲていた神田さんも、ただの打撲だったそうで、病院でレントゲンを撮ってもらったら「ちゃんと付いてます」と医者に言われ、恥ずかしい思いをしたそう。そのうち、中山、清水、田中、マーク、到着。ダニーは少し遅れると電話がある。浜本さんは直接行くらしい。松井さんが来ない。老年キムタクこと、木村さんも来ない。みんな人の荷物の重さを計ったりして待つ。膝が腫れてると言っていた清水さんは何とかかなりそうだ。田中さんの風邪はどうなんだろう。やたら汗をかいてるのが心配。

12:15、ダニー(香港人)を最後に全員到着。ミニバスで西貢へ。西貢からはタクシー。濱本さんが来ないダニーチームをおいて13時過ぎ、各チーム、チェックイン。

スタート地点近くのBBQ siteで昼食をとる。森Qは老年キムタクが作ってくれたオニギリ、卵焼き、ポテトサラダ等をいただく。年寄りには朝が早いのか、それにしてもマメである。安本さんは、木村さんはいい嫁になれるよと感心して言う。小島さんの荷物がやたら重い。ザックから物資を出して最点検。林檎が6個にオニギリ4個。それ以外にもオヤツ関係が沢山入ってる。中山さんが、オヤツ料金オーバーしてる、先生に取り上げられるでと言う。確かに、こりゃちょっと多すぎる。そう言う、やおら小島さんは食べ始める。羊羹をムシャムシャ。中山さんが、よう噛んでたべなあかんでって、うけないギャグ。ランチを終え、スタート地点近くに移動。

浜本さんが来た。超軽装。ウエストポーチに水500ml、手には林檎日報、てな出で立ちである。老年キムタクが、新聞を指差し、それ便所紙?って尋く。おいおい、そりゃ、と一つも古いゾ。各チームの記念写真、全体写真を撮る。

午後3時の出発時間が迫ってきた。選手達はスタートラインに並ぶ。私と金子お兄さんは、ちょっと前でカメラを構え、選手達の使用前を撮ることにする。使用後のゴールで、この笑顔が見られるのだろうか??? 秒読みが始まり、アツと言う間に、ウンカのごとく選手達は私達の前を通り過ぎて行った。思わず後を追いたくなる。

1999年2月7日

11月15日(日)、深夜 無事100kmが終った。

ダニーチームは、ケイが病院送りになるというアクシデントがあったようだが、23時間22分という好タイムでゴールしていた。こりゃスゴイ。松井チームは、これから最後の階段を下りますと電話があつてから、なかなか来ないと思つたら、ゴール前で全員県人会のTシャツに着替え、顔まで洗っていたらしい。道理で、第2サポート地点ではあんなに疲れた顔してたのに、松井、中山、清水、田中、全員スッキリした男前でゴール。30時間を余裕で切るタイムだった。

児玉さんとの賭けに勝った中山さんは1000ドルを手に入れた。みんな、早速タカリましようね。本多チームは、児玉、安藤、森Qが迎えに出る。最初に来たのが浜さん。気付かず通り過ぎてしまい、浜さんに声をかけられて驚く。浜さんは闇夜に紛れるくらい黒くなっていた。5分ほど遅れて神田さん。いつも疲れると頭をグラグラ揺らしながら歩く人なんだが、首はちゃんと座り、しっかりした足取り。もう5分ほど遅れて、本多さんと大場嬢が来る。意外なことに一番疲れていたのが本多さんだった。やはり前日の午前様が祟つたのだろう。大場嬢が、眼を離すと落ちそうになるんですよと心配して言う。

このチーム、最後は4人で手に手をとって、雪崩のようにゴールした。31時間を少し切れた(と思う)。最後は迎えに行った私達が無理矢理走らせたのだ。30時間台でゴールさせようとして。すみません、疲れた馬に鞭うつようなことして。この後、選手もサポート隊も、安本チーム(「黒姫」チーム)を待ちきれなくて帰ることになる。このまま残して帰れないと言う河津嬢、当然待つと言う児玉親分、同意見の安藤嬢と森Qが残る。安本チームは誰の携帯電話もつながらず、いつ着くのか全然見当がつかない。checkpoint 9の通過時間から計算して、児玉、安藤に荷物番をしてもらい、河津、森Qがゴールから迎えに出る。15分ほど歩くと老年キムタク見つけた。永六輔バリの笑顔で案外元気。後は少し遅れて3人一緒。前田さんは声が出ない。膝がそうとうキテル。安本さん、小島さんは前田さんほどではないにしても辛そう。よくぞここまで来たもんだ、と抱き締めてあげたくなる。最後の階段を、前田さんは本当に辛そうに下りる。一歩、一歩、壊れかけたマリオネットのように。そして4人、横一列になって待望のゴール!

時計は午前0時を半分ほど回っていた。

選手のみなさん、サポート隊のみなさん、長い長い一日でした。本当にお疲れ様でした!

学習塾「まなび舎」開く 松本の高木さん

蔵づくりの建物の周りには色とりどりの花が飾られていた。玄関の壁に「まなび舎」の看板。多くても四、五人の少人数の授業に集まるのは、不登校や障害のある子も含め、小中高生を中心に約四十人。学校の授業の補習に来る子どもがいたら大学受験を目指す高校卒業生もいる。勉強内容などは様々な個別指導を基本に少人数で対応する。

松本市の高木美保さん（28）が夫の北村智明さん（30）と五年ほど前に自宅で始めた。

中学二年生向けの社会科の授業をのぞいてみた。

高木さんが五人の生徒に、まず紅茶を振る舞った。配ったプリントには世界地図が記されている。

「このお茶ってどこで作られているのかな？」

「中国」「インド」と子どもたちから次々と答えが返ってきた。高木さんの話は茶の産地や植民地時代の歴史、イ



子供たちに足し算を教える高木さん。ほとんどの授業は2、3人の少人数だ。松本市旭1丁目

日常題材に対話の授業 考える力深める生徒ら

インドやパキスタンの核実験の話まで広がっていく。暗記用紙に知識を羅列するのではなく、子どもたちとの会話を軸

として授業を進める。大学で障害児教育を学び、予備校の講師や養護学校の教師を務めた。だが「学校という組織での教育には限界がある」と考えた高木さんは、通信制

の「まなび舎」を開いた。そして一九九三年、知人の紹介もあって松本に移り、「まなび舎」を始めた。これまでの経験から、「学力はあるのに自分で物事を掘り下げて考える力がない子が多い」と高木さんはいう。日常生活とのかかわりを重んじ、日用品を使って授業する

と考える。金沢で学習塾を開いた。そして一九九三年、知人の紹介もあって松本に移り、「まなび舎」を始めた。これまでの経験から、「学力はあるのに自分で物事を掘り下げて考える力がない子が多い」と高木さんはいう。日常生活とのかかわりを重んじ、日用品を使って授業する



のは、知識の詰め込みだけに終わらせたくないからだ。「まなび舎」で三年半学んだ全身まひの女子は、通信制へ。

健康

ちやいかに、人生の
 幸福は、そのうちに
 あり。それ、現在の生活に
 ついて、そのうち、そのうち
 のうち、そのうちに、そのうちに
 幸福は、そのうちに、そのうちに

高木美保さんは岐阜県出身の34歳。養護学校教師や予備校講師などを経験し、平成5年に松本市へ移住。現在は日記で学習塾・まなび舎（お）を開き、不登校やへんたいを持つ子どもたちへ資格取得をめざす。社会人ながらも受け入れています。いろいろな“生徒”とかわるなかで、考えたこと感じたことなどをつづってもらいます。



行事を通じて、各校の
成績が、よく出ていた。

たし新指導要綱によつて、各学校の設置に仕向けられた総合的な学習時間が増えたとはいへない。むしろ、従来の教科を履修せねばならぬままに、

孝廉生といふ類談を生、
米穀にたのめりていふ
いふ言傳はなむ、ひに替
へり口調にきゆるがや
れませう。孝廉、おのこ
越してまへ、高橋彦人が
多いのには違ひなかつた。
私の郷土にはおひきとら
まふやうにしてゐる。富山

(附題「米穀」)

利は國益に於
 又かゝりし
 かなる 戦田は
 國を益するに

血欠の暇に、其の暇に、
ふたたびのうた、ふた
ふたたびのうた、ふた

(科圖圖「#64550」州
冊).

ところへ、美穂はカ
ンダー作りの短作業、散
歩など中々の練習内容と
は程遠く、娯楽ばかり。作
業学習もまじりゃしたラ
クラクに遊びまわ、井足
の機嫌を高めるためのリ
ハビリとして取り入れら
れるのはよいのだけれど、
ただ時間と労やまための

道長は驚きしにた彼女
 せ「ふふふの若輩はうた
 へ」又世に出づ母の世に
 たりふふふふふふふふ

私は大学時代に障害児
教育を専攻し、卒論のテ
ーマは「重度障害児にお
ける生理学レベルでの反
応」。自力で
は書けず、母が

障害に見に勉強は必要ない？

して、一生終つたものの重
 盛體體をかりしにたが、
 表裏を言葉に区別にした
 ことが、今には何と感心
 してゐたか知らず、い
 女船からのひまひまは刺
 激にたが、眼波、眼珠
 の動き、口拍数はこの区
 別をなしてゐたのだ。

菊池生の手は、教壇や
 阪生の研究室の手よりい
 つに堅固にたが、社会に
 がたして話めしつゝ生田
 になつてゐた。新生田
 は比較したから何年か調
 査したのだから、母はな
 らくからの世にたがた
 や教育で、母親と看護婦
 のなつた世になつてたが
 だが、確かに有意義な女

ገጽ ፳፻፲፱ ስምዖን ጳጳስ
 ለጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ
 ለጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ
 ለጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ ጳጳስ

「ふは種族をわけて
ふたつ 階級の通ひつたもの
れは異國に結婚して異國
たる」。これは非難の言
語に、實にこの書が、
いふやうな事だ。さうい
ふやうな無稽な事といふ
いはなく、このくに於て
ト 来つたものといふ。
にやうな、前達の種々の
書物で、認識不足の不飽
満に翻つたものだからとい
ふは斯ういふ。

(附錄「おぼろ」州
附)

20

上さんの場合、養護学級ではなく、普通学級の教室で授業を聞ければ、書くことが困難でもなくなり勉強になり、入試間際にも急いで詰め込むこともなかったでしょう。出会ったのが三年の十一月な

〇「子爵の義理は」を
 心算したるにあらうく
 一と五歳勉強したる、い
 かに若校を卒業して、世
 口慣張りのまじり、世間
 不正に精通校には居るが
 やうにして、

彼女のように学びたい
意思があるのに、義務教
育もまともに受けられな
い生徒がいるのは悲しい

保 〇
保 〇

—これでいいの？学校教育—

「それはいい、憲法が守ら
れる権利がある」の中高生
に憲法を教えるはいい、だ
にそれだけじゃいけない
ものがある。

また、ある公立学校の
授業を参観する機会があ
ったのですが、その英語
の授業にはがくぜんとし
ました。授業時間の半分
以上を自分の休日の話に
費やしたあと、おもむく
に黒板を向くと、教師は
背広のポケットに手をつ
っこんだまま黒板と課題
の字を書きます。

何の説明もなしに書き終わると「英語が難しいとか苦手とか書いたりするが、それは努力不足だ。数学に二時間、英

時は三時間ばかり過ぎた。
 ならぬといふはなぬ。
 ろうに勉強もせずに文
 句を言つては駄目だ」と
 言いました。質問した生
 徒に對しては「教科書を
 読んで自分からいふやう
 におれの説明が理解でき
 るわけなら」と言ふまじ
 ん。新しい文法や構文の
 説明もいふにすぐく自信
 全し何となく、いふ
 のが果たして自主性を養
 へるにはなぬが、いつか
 間にあつて、こゝろを
 授業が目の前に突然と
 になられたといふ本音に
 驚きました。

(附題「書のついで」出
世)

私の郷土は空を飛ぶ

9.

また、過去の入試問題も書店で冊子になって売られ、たれても簡単に入手でき対策を立てられましたが、ここからは受験の生涯のみが中学でもらえるだけで、これは簡単に

私に送ける
雲川気にはな

[illegible]

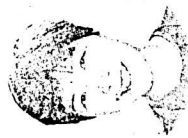
(新題)「まなび舎」生
計)

核家族で共働きなのが
家では、乳児のころから
保育園は不可欠な存在し
ますが、この上の子が休みの
たびに園は「希望保育」
になります。例えば今回
の園のお預りはまだで

家型の門外者の世
かたは、いふに、

親の背中を見て子は育つ、我々カマの毎日で

かみ 顔倍し
髪V髪かろう



母親が働くには環境・
風潮はまだまだ厳しい・
三歳前に外に出すと胃腸
が不安定になるとか、さ
らにはキレやすい子の原
因にまでなれたり。キレ
やすさについては食べ物
や環境キル生への影響な
どもわかってまいりながらわ
れていきます。未就学児か
ら大学入生、社会人まで
の多彩な学生の中には、
だいたいなによりですぐ泣き

(新聞週刊「まなび舎」主
宰)

下記原稿は会報のための原稿ではなかったのですが、三角テント時代の私の立場からは非常に興味深い内容でしたので、掲載します。

学生の宿命ながら、「こうした方が」と全体が見えるようになった頃には、卒業であり、執行部学年に口を出さない美風も流れているようです。しかしながら、受け継がれる知恵があってこそ創部40年の歴史は輝くと思います。

ワンゲル・テント編成と購入時の考慮点

37期 柴田 祐介

テントは就寝可能人数が決まっており、かつ装備中にしめる重量も大きい
ため、本来なら山行ごとに適切な収員数のテントを装備するのが望ましいが、
全体合宿（新トレ・小屋作業等）や夏合宿のように同時期に山行が重なる現
状では、装備すべきテント数が膨大なものとなり、その財政負担が過大、か
つ、非効率なものとなる。

ワンゲルのテント編成は、現状では夏合宿のparty 構成を可能とする装備
がまず必要となる。

不可欠員5人、1 party 平均7/8人とするならば、5/6人用(V-604・エスパスジャンボ)
と2/3人用(V-304/404・D-41/Ⅱ)とをparty 数(4~5p)が適当。また夏合宿など
でparty 間で人数が片寄ることもあるので、最大10人party 編成までを考慮
して5人用を1ヶ程度余分に装備するのが、結果的に小屋作業、冬合宿等の全
体合宿で設営テントを減らす上でも好ましい。

エスパス・ジャンボは冬期においても6人就寝が可能のため便利であり、2ヶで最大
12人party を作ることも可能であるが、金沢での取扱店ロッジが閉店したの
で、新たな取扱店が現れなければ、購入・修理が面倒となるので今後購入対
象となるか疑問である。

また、同一規模のテントならば、機種を同じにしておくでフレーム・フラ
イ等を破損したとき代替が可能であり便利である。

故に、5人用としてはV-604(竪250×210■重5.5kg)。2/3人用として、D-41/Ⅱ
の消耗・償却後、V-404(竪180×210■重4.5kg)・V-304(竪150×210■重3.7kg)の2機
種が選択対象となるが、この種のテントが通常1ヶとして使われ、団装を置
かず個装のみである事を考えれば、(V-604の5人使用時の一人当りの占有面
積と同じ)50×210mmを3人分確保できるV-304一機種のみで十分でないだろ
うか。もちろん不可欠員が変更され、3・4人の山行が出るようになれば選
択の仕方は異なることになるであろう。

Vシリーズ編成だと、5人party の時、2張り持っていくのは面倒だから困
るという指摘があるが、ザックにカバーをかけテント外に出せば、一張り
で6人寝ることは可能である。実際、他大学のワンゲルのそういう姿を夏山で
みたことがある。

不足テントについては、購入が必要となるがその取得方法には3つある。

①まずは部の懐を痛めない学生課の予算で買ってもらう方法。ただし、この方法は取得までに時間が掛かる上に、学生課に予算が無ければならないが、学生は通常、予算など知り得ない。経験的には2・3月頃に年度末調整（予算を使い切る）のためか、次年度以降の予算獲得のための実績作りか？学生課の人からお声が掛かる。

2・3月に要求を出して許可されたとしても、取得するのは5月頃になるので注意が必要。またお声掛けを待つのではなく、年度中でも学生課に顔を出したら何かと言って物をいしたほうがいいのかもかもしれない。（笑い）

何にしるまず始めに予算ありきだから6人張が欲しくても3人張しか買えないということもある。もちろんテント以外の団装も購入可である。

確認した事はないが、これらの物品は学生課の所有物でワンゲルは借り受けているという扱いかもしれないので、その場合は返納すべきなのだが…。

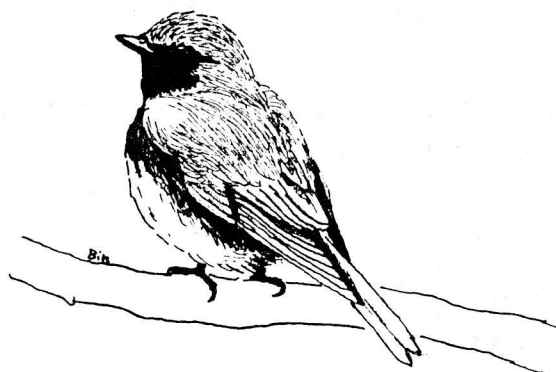
②部予算及び部員からの臨時徴収による団装購入費捻出。

新入生が有り難い事に大挙して入部したりするとテントが足りないといった事態に陥ることもある。新入生歓迎山行や新トレ内行など、山行までの時間がない時、部員からの臨時徴収という方法も採られた。

③OBを頼る。OB会が機能しだして見役との交流というと、貧乏学生？の活動を援助しようという有り難い申し出もあるが、頼みをする前にもう一度活動と団装を見直して見よう。

それでも必要なときは「〇×がいる」でなく、必要とされる理由（部員数・活動計画・団装在庫・部財政状態等）を明らかにした上でお願いしてみる。

部の倉庫には、何年もテン設されたことのないテントも眠っている。また山行中に起きたテントの破損も、下山後、迅速に修理されているわけではなく、ほったらかしのまま、次の山行を迎えるような状況にある。さらに、テント本体・フレーム・フライ・内／外張り・張り綱・収納袋のワンセットごとの管理も完全とはいいがたい。望ましいテント編成のためには、統一機種の拡充と使用機種の破損放置への注意・迅速な修理と共に、余剰テントの整理・放出による倉庫空間の整頓・管理が必要であろう。このためには、年2回(1部11部)程度、在庫の全テントを設営・診断する機会を作ることが良いと思う。



材い)



ミロバネエンソウ

ワンゲル 団装一覧 テント 1995/03/31

製品名／定員	使用定員	部内呼称	備考欄
エスパース・オールシーズン (6人)	エスパ93	内張有り	部費購入
(ジャンボ)	エスパ33	内張有り	33期寄贈
6~7人用	エスパ III	(93新トレ火傷事故時、出入口の吹流し引火)	
	エスパ II	内張有り	
	エスパ I	ポール無し	
ダンロップ・V604 (5人)	ND-93	V用外張有り	学生課予算(№158)
(V600)	ND-34	V用外張有り	34期寄贈
6人用	ND- II		設営時の上から見た
	ND- I		ポールの形
ダンロップ・V304 (2・3)	D-35		35期寄贈 *型
3人用	D-94		学生課予算
ダンロップ・CTC7504 (3人)	D-4 II	4人用外張有り	学生課予算s58/3(№138)
4人用	D-4 I	6人用外張代用	学生課予算s58/3(№137)
ダンロップ・DT7606? (5人)	由佳	6人用外張有り	ポール構成は6人用 **型
ダンロップ・CTC7501?(4?)	智鶴	フライ無し6人用外張代用	ポール構成は4人用 米型 多少大きい
ダンロップ・型式不明6人用?	素子	6人用フライ使用 音が高い	ポール構成は4人用 米型 大きい
ダンロップ・型式不明3人用	康子	フライ無し 換気窓付	ポール構成II型

北部倉庫

ウインパー 8人用	本体 内・外フレーム 張り網 内張 1セット完備 →
ツェルト モンベル・ウルトラ・ライト(1~2人)	450g 1ヶ
ツェルト アライ・スタンダード (1~2人)	620g 12ヶ 部費購入(95/2)

1993/12/01 「城内体育館における設営診断時 未設営(余剰テント)」

ダンロップ6人張本体	3張 (DT7606系 DTM3600系?)	
フライ	4ヶ	
外張	2ヶ	
ダンロップ4人張本体	1張 (CTC7504系?)	北部倉庫
ダンロップ2~3人用本体	1張 (部内呼称「翔子」)	↑
フライ	2ヶ	かなりくたびれたアルミ・フレーム多数 他にボロウインパー 有り